

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 折尾東 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

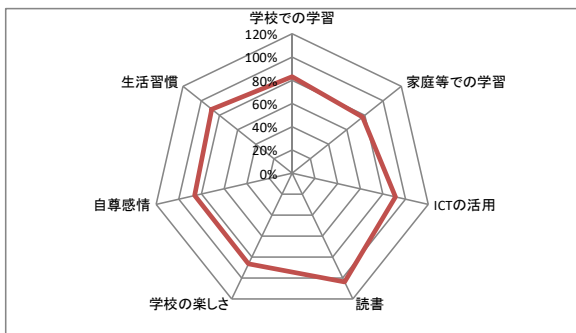
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・感染症対策により、表現活動が難しい中、ICTを使った表現活動を工夫して指導してきたが、今年度は正答率は北九州市平均、全国平均を上回っていた。表現するという目的意識をもって学習してきた効果が出たとも言える。構成等には気を付けて伝えようという意識は育っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題では、全国平均を上回る正答率であった。学習中に必要なことを記録したり質問したりして話の中心を捉えることが出来るようになってきていると考える。	
	努力が必要な問題	・「書く能力」の問題を苦手としている本校の子どもたちである。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題での正答率が低かった。伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見付けることができるとよいにさせたい。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・今年度は正答率は北九州市平均を上回っており、全国平均と同程度であった。苦手としている説明等を記述する問題については、キーワードを明確に示すことができていることが課題として残った。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・基礎基本の問題を繰り返しやってきたので、数と計算の問題の正答率が高くなった。 ・目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題の正答率が高かった。データの活用が上手になってきている。	
	努力が必要な問題	・百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題の正答率が低かった。日常の具体的な場面に対応させて割合について理解できるようにさせたい。 ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題の正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・今回は正答率は北九州市平均を上回っており、全国平均と同程度であった。しかし、続けて努力が必要である。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	・実験器具を理解し、器具の正しい扱い方を身に付けているかどうかをみる問題は、全国的には課題の見られた問題であったが、本校の児童はよく理解していた。今後も知識を教え込むのではなく、観察や実験などの目的に応じて、正しく使えるように普段の授業で指導していきたい。	
	努力が必要な問題	・提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかをみる問題では、正答率が低かった。得た事実を比較しながら、共通点、差異点を探させる活動等も取り入れたい。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>・本校の児童は、全体的に自分に自信をもてない児童が多い。「自分には、よいところがあると思いますか」という質問では、まだまだ肯定的回答は低いが、調査後の6年生としての責任を果たす活動を経て、自分によいところがあると思っている児童は増えてきている。今後も今行っている友だちのよいところを見付ける活動を続けていくことで、自己肯定感・自尊感情が高まっていくと考えられる。</p> <p>・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問では、全国平均を上回っている。GIGA端末の使用技術も高まり、学級の友達との間で表現するツールの一つとなってきた。</p> <p>・携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などの時間は全国平均よりも増えている。使い方について、家の人と約束したことを守っていないという実態も見えてきた。家庭の協力も得ながら、うまくICTに触れさせたい。</p> <p>・「読書は好きですか」という質問には、肯定的回答が全国平均を大きく上回っている。ICT機器が発達した今でも、読書に対する興味関心があることは、嬉しいことである。発表が苦手であるが、ノートまとめや文章としてまとめていく力が伸びている理由はこの点にあると思われる。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ① これからも続けて日々の授業の中で、ICT機器も活用しながら、考え、表現する活動を確保するように努める。
- ② 「読書活動」を奨励する。1単位時間の授業の中に『意見の交流活動』と『書く活動』を意識するようにしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習について、「折東っ子スタンダード家庭編」に示されている、低学年15分、中学年30分、高学年45分以上の学習習慣が定着するように、学年通信・学校だより等で、引き続き家庭に啓発していく。音読も続けていく。
- ・毎日同じくらいの時刻に寝ている児童の割合が全国平均よりも低いので、家庭の協力も得ていきたい。ゲームをする時間、スマホなどでネットに触れる時間が全国平均よりも多く、携帯等の使い方の約束も守れていない実態が見られるので、保護者に懇談会や学校通信等で啓発していく。